

認知症地域支援推進員における令和3年度の特徴的な取組事例

1 認知症カフェの支援

- ・ カフェ店長会（運営責任者）の連絡会を開催し、コロナ禍でのカフェ開催状況及び感染対策の工夫、新規開店カフェの情報共有等を行った。また、メールや電話等を使用して認知症カフェの状況把握に努めるとともに、認知症カフェにおいてもオンラインの普及が進むよう、オンラインの活用について勉強会を開催した。
- ・ 企業への認知症サポーター養成講座や若年性認知症の研修会を積極的に調整・開催し、認知症に対する理解の普及に努めた。また、当該講座を受けた企業で、地域貢献の意思がある企業による認知症カフェの新設と運営支援を行った。

2 若年性認知症の人とその家族への支援

- ・ 本人が日頃やりたいこと、頑張っていることに寄り添いながら、研修会等において当事者が想いを表出する支援や、本人の活動を多くの人に発信する機会の創出に努めた。また、住民や関係機関の支援者でネットワークを作り、本人が住み慣れた地域で自分らしく過ごせるよう支援を行った。
- ・ 若年性認知症の方やその家族の支援の中でニーズを拾い、地域の介護施設やボランティアの方と協力しながら、同じ病気を持つ家族同士が交流する機会を創設した。

3 認知症サポーターステップアップ講座

講座では、コロナ禍において認知症カフェや施設への見学が難しいため、見学以外の方法で認知症の方への実際の対応を学べるよう内容の見直しを行った。